

名誉会員の紹介

第514回理事会（平成18年1月）の議を経て、下記の2君が平成18年5月30日第49回通常総会において名誉会員に推挙されました。
（入会順）



稲垣 康善 君

いな がき やす よし

昭和37年3月 名古屋大学工学部電子工学科卒業
昭和39年3月 名古屋大学大学院工学研究科修士課程電子工学専攻修了
昭和42年3月 名古屋大学大学院工学研究科博士課程電子工学専攻単位取得退学
工学博士
名古屋大学助手
名古屋大学講師
名古屋大学助教授
昭和42年5月 三重大学教授
昭和42年4月 名古屋大学教授
昭和42年10月 米国スタンフォード大学客員研究員
昭和45年4月 英国マンチェスター工科大学客員研究員
昭和52年8月 名古屋大学評議員
昭和56年1月 名古屋大学大学院工学研究科長・工学部長
平成4年4月～平成6年3月 中国東北大学名誉教授
平成9年4月～平成12年3月 名古屋大学大型計算機センター長
平成12年1月 名古屋大学名誉教授 愛知県立大学情報科学部教授
平成12年4月～平成14年3月 愛知県立大学情報科学部長・大学院情報科学研究科長
平成15年4月
平成16年4月～現在

本会関係略歴

- (1) 昭和37年1月入会
- (2) 理事（平成4年度～平成5年度）
- (3) 会誌編集委員会委員（昭和57年度～昭和58年度）
- (4) 創立30周年国際会議組織委員会委員（昭和63年～平成2年度）
- (5) 情報処理教育委員会委員（平成3年度～平成9年度）
- (6) 情報規格調査会理事（平成4年度）
- (7) 論文誌編集委員会委員（平成6年度）
- (8) 調査研究運営委員会1号委員（平成6年度）
- (9) 調査研究運営委員会委員長（平成7年度～平成8年度）
- (10) 第52回全国大会プログラム委員長（平成7年度）
- (11) アクレディテーション委員会委員（平成11年度～現在）
- (12) 平成12年度功績賞
- (13) 平成13年度フェロー



棟上 昭男 君

とう じょう あき お

昭和35年3月 東京大学工学部応用物理学科計測工学専修卒業
昭和37年3月 東京大学大学院数物系研究科応用物理専修修士課程修了
昭和37年9月～昭和38年8月 カリフォルニア大学バークレイ校大学院電気工学科修士課程（原子力平和利用基金留学生 / Non-degree plan）
昭和41年3月 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（工学博士）
昭和41年4月 通商産業省工業技術院 電気試験所（後の電子技術総合研究所）研究員
昭和46年10月～昭和47年9月 スタンフォード大学人工知能研究所（科学技術庁在外研究員）
昭和49年8月 電子技術総合研究所 情報システム研究室長
昭和57年6月 電子技術総合研究所 ソフトウェア部長
昭和63年10月 電子技術総合研究所 情報アーキテクチャ部長
平成3年3月 情報処理振興事業協会（IPA）理事
平成10年7月 情報処理振興事業協会（IPA）顧問
平成11年4月～現在 東京工科大学メディア学部 教授

本会関係略歴

- (1) 昭和 42 年 3 月入会
 - (2) 会誌編集委員会委員 (昭和 48 年 4 月～昭和 52 年 4 月)
 - (3) 欧文誌編集委員会幹事 (昭和 52 年 7 月～昭和 58 年 6 月)
 - (4) 論文査読委員 (昭和 53 年 4 月～平成 7 年 5 月)
 - (5) 規格委員会 SC 13/SC 25 専門委員会委員長 (昭和 57 年 9 月～平成 4 年 6 月)
 - (6) 規格委員会委員 (昭和 57 年 9 月～昭和 61 年 10 月)
 - (7) 情報規格調査会幹事会委員・調査理事 (昭和 61 年 11 月～昭和 63 年 1 月)
 - (8) 理事 (昭和 59 年 5 月～昭和 61 年 5 月)
 - (9) OS インタフェース (SSI) 調査研究委員会幹事 (昭和 60 年 6 月～平成 3 年 3 月)
 - (10) 情報規格調査会副会長 (昭和 63 年 2 月～平成 6 年 6 月)
 - (11) 情報規格調査会会長 (平成 6 年 7 月～平成 15 年 6 月)
 - (12) 情報規格調査会技術委員会委員長 (平成 6 年 7 月～平成 15 年 6 月)
 - (13) コンピュータセキュリティ研究連絡会委員 (平成 10 年 4 月～平成 14 年 3 月)
 - (14) 文字コード標準体系検討専門委員会委員 (平成 10 年 11 月～平成 11 年 11 月)
 - (15) 代表会員 (平成 12 年 4 月～平成 16 年 3 月)
 - (16) 学会試行標準専門委員会委員 (平成 14 年 1 月～現在)
 - (17) 情報規格調査会顧問 (平成 15 年 7 月～現在)
 - (18) 昭和 45 年度論文賞
 - (19) 平成 12 年度ベストオーサー賞
 - (20) 平成 14 年度フェロー
 - (21) 平成 15 年度功績賞
-

平成17年度功績賞

功績賞は、情報処理に関する学術または関連事業に対し特別の功労があり、その功績が顕著な会員に贈呈されます。

本年度の受賞者は関連規程に基づき、第515回理事会（平成18年3月）の議を経て、下記の3君に決定され第49回通常総会（平成18年5月30日）において、賞状および賞牌が授与されました。

（入会順）



益田隆司君

ます だ たか し

本会正会員 益田隆司君は、産業界、大学、そして学会において数々の業績を上げてこられました。昭和40年に株式会社日立製作所に入社し、HITAC5020によるタイムシェアリングシステムの研究開発を通して、仮想記憶管理に関する研究に取り組みられました。そして、統計的手法と実機利用環境で採集したデータとを組み合わせた性能評価研究の方法論を切り開かれました。

その後、筑波大学、東京大学、電気通信大学に赴任され、オペレーティングシステムおよびシステムソフトウェアを中心とした研究・教育に従事されています。その間、国際会議、国内外の学術誌での論文により、その業績は高く評価されています。この間、本会からは数度の論文賞を受賞されています。

同君は教育者としても足跡を残されました。教員を務めた3大学において薫陶を受けた人材が学界、産業界において多数活躍するに至っています。さらに、東京大学においては大学院理学系研究科長および理学部長、電気通信大学においては副学長、電気通信学部長、学長を務められ、研究・教育環境の整備と改革に渾身の情熱をもって取り組んで来られました。

本会においては、オペレーティングシステム研究会主査、理事、監事、会長を務められました。平成11年度にはフェロー称号を授与されています。会長任期中は、IPSI Digital Courierの創設による論文英文化の促進、それに、学生会員の重要性の指摘、勧誘と育成の手立てなど、本会の発展に新しい道筋を与えられました。



田中穂積君

た なか ほ づみ

本会正会員 田中穂積君は、永年にわたり一貫して知識情報処理分野の研究に携わり、数多くの優れた業績をあげてこられました。特に日本語の構文解析・意味解析の分野では草分け的存在で、多くの先駆的研究をされています。たとえば、論理プログラムと自然言語処理を融合させる新しい手法を発展させるとともに、第5世代コンピュータ計画にも多大な貢献をされました。最近では、GLRと呼ばれる構文解析技術に、わかち書きを行うための形態素解析技術を融合させて、形態素解析と構文解析を同時並行して行う新しいアルゴリズムを提案するとともに、このアルゴリズムを組み込んだ自然言語処理用ツール（MSLRシステム）を開発し、公開されています。この研究は、さらに確率的要素を導入したPGLRモデルに発展しています。これらの第1級の研究を通じて、優れた教育を行い、知識情報処理分野において優秀な人材を送り出してこられました。

また、同君は科学研究費学術創成研究「言語理解と行動制御」研究代表者として、計算機科学のみならず、哲学、言語学、認知科学、ロボティクスなど、他分野の研究者も参加したプロジェクトをとりまとめ、言語と行動の関係を探究する新しい学際的研究分野を開拓されました。さらに、早くから言語資源の重要性を認識され、欧米に比べ、日本には言語資源を収集管理し流通させる機構が皆無であったことから、2004年末に特定非営利活動法人「言語資源協会」を設立され、現在、その理事長として自然言語処理研究のインフラ整備に尽力されています。

本会においては、各種委員会委員、主査、理事等を歴任され、また人工知能学会、言語処理学会の会長などを務められるなど、日本の知識情報処理分野において指導的な貢献をされました。また、国際的にはアジア太平洋機械翻訳協会会長、国際機械翻訳協会会長などを歴任され、現在もInternational Committee of Computational Linguisticsのメンバとして活躍されています。

教育の分野では、今や大学や大学院の教科書・参考書として広く採用されている「自然言語解析の基礎」（田中穂積著、産業図書、1989）、「自然言語処理—基礎と応用」（田中穂積監修、電子情報通信学会、1999）を出版され、我が国の情報処理基礎教育に対して多大の貢献をされています。

産業振興に関しては、1983年より始まった通商産業省の「第5世代コンピュータ計画」に計画立案の段階から参加し、知的インタフェース分野の研究を指導されてきました。また、1985年から始まった通商産業省のODA事業「近隣諸国間の機械翻訳システムに関する研究協力」では、産業界をとりまとめ、多言語機械翻訳プロジェクトの技術委員長として我が国の情報産業に貢献されています。

以上のように同君は、知識情報処理分野の研究の進展、教育、産業振興において大いに貢献しており、その功績はまことに顕著であります。



林 弘 君
はやし ひろむ

本会正会員 林弘君は、永年にわたり産業界における情報処理分野の研究開発の先頭に立ってこられました。その業績は、商用LISPマシンの開発・製品化、第5世代コンピュータプロジェクト（FGCS）やリアルワールドコンピューティングプロジェクト（RWC）における研究開発など、コンピュータ・アーキテクチャの分野を中心に、その上の言語処理系の研究開発、ミドルウェアおよびアプリケーションの研究開発・製品化まで多岐に渡っています。これらの業績に対し、オーム技術賞（1986年）が授与されています。

最近では、バイオメトリクスなどのセキュリティの分野、入出力やストレージのシステム分野でも研究開発を指導されています。

同君は、FGCS技術委員、RWC技術委員、科学技術振興事業団領域アドバイザー、独立行政法人情報処理推進機構次世代ソフトウェア開発事業審議委員、日本学会会議連携会員などを歴任され、産業界を代表して指導的な役割を果たされています。

本会においては、理事（1992年～1993年）、監事（1997年～1998年）、副会長（2001年～2002年）を歴任し、運営の中核を担い、本会の発展に多大の貢献をされています。

また、静岡大学、九州大学、早稲田大学、東京農工大学などでの客員教授、非常勤講師を通して大学教育にも携わられたり、研究会などの場で、会社という組織の壁を越えて若手研究者を指導されています。

以上のように、同君が本会ならびに我が国の情報処理分野の発展に尽くした貢献はまことに顕著であります。

各賞表彰(概要)

詳細は Web サイト (http://www.ipsj.or.jp/01kyotsu/award/sho_index.html) をご覧ください

平成 17 年度論文賞の表彰

本賞の選考は、表彰規程および論文賞受賞候補者選定手続きに基づき、論文賞委員会(委員長 西田豊明)が、情報処理学会論文誌第 45 巻 10 号～第 46 巻 9 号および第 45 巻 SIG11 号～第 46 巻 SIG13 号に掲載された対象論文 490 編につき慎重に審議を行いました。その結果、下記の 8 編が受賞候補論文として選定され、第 515 回理事会(平成 18 年 3 月)の承認を得て決定されました。なお、本会表彰規程により、第 49 回通常総会(平成 18 年 5 月)において著者に表彰状、賞牌および賞金が授与されました。

- 「軽量仮想計算機モニタを用いた OS デバッグ方式の提案」
[論文誌 Vol.46, No.7, pp.1735-1751 (2005)]
竹内 理君(正会員)
- 「型安全でない C プログラムのポインタ解析」
[論文誌 Vol.45, No.SIG12 (PRO23), pp.52-66 (2004)]
千代英一郎君(正会員)
- 「リンク情報の利用による Web 検索性能の改善」
[論文誌 Vol.46, No.SIG8 (TOD26), pp.48-59 (2005)]
正田 備也君(正会員) 高須 淳宏君(正会員)
安達 淳君(正会員)
- 「チェアサイドで使用可能な発語評価のための音声認識の開発」
[論文誌 Vol.46, No.5, pp.1165-1175 (2005)]
松浦 博君 桃崎 浩平君(正会員)
正井 康之君 秀島 雅之君
犬飼 周佑君 佐藤 雅之君
安藤 智宏君 大山 喬史君
- 「Illumination Color and Intrinsic Surface Properties — Physics-based Color Analyses from a Single Image」
[論文誌 Vol.46, No.SIG9 (CVIM11), pp.17-40 (2005)]
Robby T. Tan 君 Katsushi Ikeuchi 君(正会員)
- 「チャンネル間相関を用いた多チャンネル信号の可逆圧縮符号化」
[論文誌 Vol.46, No.5, pp.1118-1128 (2005)]
鎌本 優君(正会員) 守谷 健弘君(正会員)
西本 卓也君(正会員) 嵯峨山茂樹君(正会員)
- 「シームレス通信環境のためのコンテキスト情報を利用したネットワーク・アプリケーション制御機構」
[論文誌 Vol.46, No.9, pp.2236-2249 (2005)]
井上 真杉君 マハムド カレド君
村上 誉君 長谷川幹雄君
森川 博之君(正会員)
- 「音声対話システムにおけるスケーラビリティ評価モデルの検討」
[論文誌 Vol.46, No.9, pp.2269-2278 (2005)]
荒金 陽助君(正会員) 下川 清志君
金井 敦君(正会員)

業績をあげ、産業分野への貢献が明確になったものを選定し、その貢献者に贈呈するものです。

本年度の受賞者は、「業績賞候補者推薦用紙」により推薦された候補のうちから、表彰規程および業績賞候補選定手続きに基づき、旭副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、第 515 回理事会(平成 18 年 3 月)の承認を得て、下記の 3 件の業績の貢献者 14 名に決定されました。

受賞者には、本会表彰規程により、5 月 30 日に開催された第 49 回通常総会において、受賞者に表彰状および賞牌が授与されました。

- 「XML の制定・普及への貢献」
村田 真君(正会員) 小町 祐史君(正会員)
檜山 正幸君 田村 健人君(正会員)
- 「次世代共通鍵暗号方式「Camellia」の開発と国際標準化」
神田 雅透君(正会員) 青木和麻呂君
松井 充君(正会員) 時田 俊雄君(正会員)
盛合 志帆君
- 「非接触型手のひら静脈認証技術の製品展開」
佐々木 繁君(正会員) 渡辺 正規君(正会員)
若林 晃君(正会員) 川合 裕昭君
勝又 裕君

平成 17 年度長尾真記念特別賞の表彰

本会では、第 20 代会長長尾真先生(京都大学名誉教授/独立行政法人情報通信機構理事長)からご寄贈いただいた資金により、情報処理の研究・開発に携わる優秀な若手研究者を表彰の対象として「長尾真記念特別賞」を新設いたしました。本賞は、情報処理の学術・技術に関わる分野でその研究開発に特に顕著な貢献が認められ、今後の進歩、発展が期待される 39 歳までの研究・開発者を対象としています。

本年度の受賞者は「長尾真記念特別賞候補者推薦書」により推薦された候補者の内から、表彰規程および長尾真記念特別賞候補者選定手続きに基づき、白鳥副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、第 515 回理事会(平成 18 年 3 月)の承認を得て、下記の 3 名に決定されました。受賞者には、本会表彰規程により、5 月 30 日に開催された第 49 回通常総会において、表彰状および賞金が授与されました。

- 「放送番組の映像構造化技術の研究開発」
青木 恒君(正会員)
- 「高能率映像符号化に関する研究開発」
高村 誠之君(正会員)
- 「プログラム変換技術を活用したソフトウェア開発ツールの開発と普及」
千葉 滋君(正会員)

平成 17 年度業績賞の表彰

本会では、産業界における顕著な業績を顕彰するため「業績賞」を設けております。

本賞は、情報技術に関する新しい発明、新しい機器や方式の開発・改良、あるいは事業化プロジェクトの推進において、顕著な